

## 1. 児童虐待に関する状況に対するご意見

「児童虐待通告受理件数」、「児童虐待ケースとして見守っている子どもの実人数」とともに、平成27年度から令和元年度にかけて増加傾向にあること、及び、「年齢別内訳」では平成30年度より令和元年度の方が、5歳児以下の子どもたちの件数が増加していることに一層危機感を高めた。

内容についての意見ではなく、内容をグラフ化していただけると、より情報が分かりやすくなると思う。  
⇒わかりやすい資料作りに努めます。

区域別で中区の増加が気になる。他の区とは別の要因があるのか？

⇒直近5年の傾向を確認すると、年度ごとに増減はあるものの、通告件数は中区を含む全区で増加傾向にあり、中区では特に他市町村からの通告が他の区と比べて多い傾向にあります。それに伴い、見守りを行う子どもの人数も増加している状況にあります。

児童虐待が増加の傾向にある事、心が痛む。また、今年度はコロナ禍で自宅における事も多く増えているのではと心配している。

1(3)近隣・知人からの通報の実態を知りたい。

⇒近隣・知人の方からは「怒鳴り声が聞こえる」「洗濯やお風呂のお世話をされていない」といった通告が入っています。

2(3)新規は単年度だと思うが、継続はどのような状況か（何年）

⇒継続のケースの対応年数はケースによります。平成15年度から対応しているケースもあります。

## 2. 上半期の児童虐待に関する状況に対するご意見

緊急事態宣言を受け、学校園が臨時休業となり、家庭で過ごす日々や時間多くなったことで、「虐待を受ける子どもたちが増加」という報道がありましたが、令和2年度上半期における「児童虐待通告受理件数」で令和元年度上半期より増加していることを確認し、再認識し、意識を高めた。

新型コロナウイルスの関連で生活が不規則になっている。その影響などを含めた解析を行う必要がある。

虐待相談対応件数について、カウント方法を見直しされていますが、従来のカウント方法とどのように見直したのか教えてほしい。

⇒一部重複してカウントしていたため、是正しました。

虐待通告件数が令和元年度より増加しており、コロナ禍の下、在宅時間が増えたり、親のストレスが高まっていることにより児童を取り巻く状況が悪化しているのではないかと心配している。

相談件数は増えているがしっかり最後までサポートできているか気になる。地域でも密室での行為のため入り込めない。

身近なそれぞれの関係機関に相談してほしい。

・「らいん@おおさか」に何件の相談があったのか。

⇒相談件数は総数で3,505件ありました。うち、堺市の件数は408件でした。

・今後の内容を知って、主任児童委員活動の参考にしたい。

### 3. 児童虐待防止への取組状況に対するご意見

増加している虐待に、日夜休みなく、丁寧に、根気強く、心から子どもを救う・助けるという熱意と優しさ、思いやりで、精一杯ご対応いただいている関係各課・関係機関の方々のご尽力に、本当に深く感謝申し上げます。

多岐にわたる支援、取り組みしていただいていることに感謝。私たち民生委員も専門職とは違うが地域のこと把握している。何かゆるやかな支援ができ、見守り声掛けができ、子育てに一翼を担うことができればと思っている。

以前、地下鉄の電車内に貼られた「妊娠 S O S」のシールを見て、「大阪市は取り組んでいる」「目立つな」と思ったことがある。堺市も目立つ動的な啓発方法を考えてみるのはどうか。

⇒他市の事例を参考にしながら、効率的で効果的な啓発を検討してまいります。

### 4. 大阪児童虐待防止推進会議での取り組み状況に対するご意見

虐待の防止に向け、様々な観点から、被害にあう子どもたちを出さない、被害の子どもを迅速に救済する等の支援策の実践や関係間での連携等、きめ細やかな対応、本当に感謝している。尽力のおかげで、多くの子どもたちが助かっているものと受け止めている。

大阪府下の相談所同士の連絡などについての施策はあるのか。（各相談所の対応にばらつきがあると思われる）

⇒関係機関等も含めた定例的な会議の他、随時、児童相談所どうしで情報交換を行っています。

「精神科医療機関との連携」「警察との定期的な合同研修」「SNSを活用した児童虐待防止相談事業」の取り組みが大変重要だと思う。

### 5. 要支援ケースⅡ連絡会の立ち上げに対するご意見

一人も取り残すことなく守り、助けていく関係各課、関係機関が情報共有を密に行うことが重要であり、以前自身も「子ども虐待ケース連絡会」に出席させていただきました。朝から夜までの長時間に渡り、心配される子どもたちの状況を報告し合い、各機関が対応できる支援施策を出し合う等、熱意ある協議・検討の場に参加させていただき、学ばせていただいたことは、今も教育委員会事務局員として、大変役立っています。その連絡会が一層充実、深化されたことは、1人でも多くの子どもたちを守ることにつながるものと捉えている。

良い取り組みと思う。

良い試み、対策なので早急に全市に拡大してほしい。

## 6. 関係機関研修会に対するご意見

年齢の低い、幼い子どもたちだけが犠牲・被害に遭うのではなく、余儀なく家族のケア、サポートを担っている15歳から19歳が約4万人近くもいることには驚かされた。

ネグレクトのケースなどで気になっていたものの、定義されることでより明確に意識するようになり勉強になった。

## 7. コロナウイルスの影響についてのご意見

学校が再開されて登校できるようになった子どもたちは、当初、本当にぎこちなく、まわりの子どもたちや大人の動向を敏感に感じ取り、不安になるなど、ストレスを抱えている子どもも多かったと聞いている。また、感染症が依然として拡大傾向にある中、本当に日々の生活で、怖がることや心配している子どもたちが多数いるという情報もあり、きめ細やかな観察等子どもの見守りや相談体制が重要であると捉えている。

小児全体の病院受診者数は減少している。また家庭内での事故も減少傾向と思われる。外傷での受診などは特に注意するように伝えているが、表面的にはあまり目立っていない印象。

民生委員としては学校の登下校の見守り

## 8. 来年度の研修テーマに対するご意見

- |              |                     |
|--------------|---------------------|
| ①里親制度について    | ③子ども相談所における一時保護について |
| ④事例検討        | ⑤学校との連携について         |
| ⑥DVと児童虐待について | ⑦その他（性的虐待）          |

## 9. 来年度の議題に対するご意見

コロナが終息し地域での子育てサークル等、又、委員の研修啓発ができますよう祈ります。